



藤原 和範 議員

質問 小さな拠点づくりへの積極的な支援を

町長 専任集落支援員を配置し、事業の推進にあたる

質問 人口減少が進む中において、公民館エリアを基本に「小さな拠点づくり」を推進し、地域住民が暮らし続けたい地域をつくるため、より積極的な行政支援が必要と考える。現在の取り組み状況は。

町長 話し合いや先進地視察等により、徐々に理解が深まり、課題解決の洗い出しや地域の魅力について検討が進んでいる地区もある。

質問 地域にあった取り組みが必要と考えるが、コーディネーター等の配置の考えは。

町長 具体的な取り組みを進めて行く段階になれば、県の中山間地域研究センタ

ー等に派遣を依頼したい。専任の集落支援員が地域のコーディネーター役を担うことが理想である。

質問 今後の具体的な支援策は。

質問 空き家バンクの登録物件と周辺の遊休農地をセットで売買する場合に、下限面積を引き下げられる「農地取得制度の運用」を検討し、定住促進と共に遊休農地の有効利用を図っては。

町長 空き家に附属する農地等について、問題点もあると思うが、Uターン者等が農地を取得しやすくするため、また、遊休農地を減らすた

町長 積極的に進める地区に対し、専任の集落支援員を配置し、また地域運営支援事業として、先進地視察等その課題解決に向けて実行していく。

空き家と遊休農地のセット活用について

めにも、今後、農地取得や賃貸借の下限面積50アール未満について、引き下げに向けた検討を農業委員会に対して、要請していきたい。

斐乃上荘の改修について

質問 「日本三大美肌の湯」として、奥出雲町のかげがいの無い財産である「斐乃上荘」の計画的な改修が必要と考えるが。

様に利用いただいている。施設、設備の老朽化により、近年は緊急性の高い修繕を優先的に実施しながら営業を続けている。

町長 ヴィラ船通山・斐乃上荘については、開業以来、泉質の良さ、奥座敷的な雰囲気の評判を呼び、町内外から多くの皆

今後も必要な修繕には対応する。計画的な改修については、関係者、利用者の声を参考に、今後検討していきたい。



計画的な改修が待たれる「ヴィラ船通山・斐乃上荘」